

「また来てね」園児の声に感激

●岡田洋子さんの講演要旨

私が第6次交流隊に参加したのは、子ども文化のサークルに所属しており、昔遊びを通して子どもたちや被災した方々と交流できるかな、と思ったからです。仙台市東六郷小学校は校舎が倒壊して児童わずか17名。チラシで紙鉄砲を作ったり、紙飛行機を飛ばしたりして一緒に楽しみました。お礼に子どもたちが地元で伝わる「黒潮太鼓」を披露してくれました。この東六郷小は毎年、神戸を訪れており今年も12月にしあわせの村で交歓会が予定されています。

女川町では復興住宅でお楽しみ会やカレーを食べながらの交流会、ディスコン大会をしました。自治会役員との懇話会も初めて実施しました。その際、震災直後の女川を撮影したビデオ、阪神大震災のビデオを上映し体験談を語り合いました。婦人部や老人クラブができて活動を始め、趣味の講座も開設されているそうです。

女川に2か所ある保育所もまわり、子どもたちとブンゴマや紙トンゴで遊びました。お礼に園歌や七夕さまをうたってくれ嬉しかったです。帰り際に窓から身を乗り出して「また来てね」と手を振ってくれ、またまた感激しました。

被災地は、今、復興工事の真ただ中にあり大型重機が走り回っています。町がよみがえるまでには相当の年月がかかることでしょう。被災地で私たちは何ができるのか。〈再び学んで…〉の心を実践しようと奮闘されてきた先輩たちの列に加えていただいたことに感謝しています。

東北で心の交流 5年間

●第6次隊団長 塚汎の挨拶要旨

私たち神戸市民は20年前の阪神・淡路大震災の時、内外から多くの支援を受けました。ご恩返しの一環としてグループ〈わ〉は東日本大震災の直後から、現地へ支援チームを派遣し、今年7月の第6次隊まで5年にわたり活動を続けてきました。この間、KSCの現役やOBの皆様から物心両面のご支援をいただき、公的な助成金も得て支援活動を続



1次隊 田んぼでガレキ運び



3次隊 仮設で銭太鼓の体験



4次隊 仮設で手料理交歓会

東北支援へのご協力に感謝

グループ〈わ〉が2011年4月から5年間にわたって続けて東北支援事業は、この7月に実施した第6次チームで一応終了することになりました。

田んぼ作業に奮闘した第1次チーム、初めて仮設住宅を訪問した第2次チーム、料理やスポーツで交流した第4次チーム、自治会と地域ボランティアについて討議した第6次チーム…。いずれも地元の子供たちや地域の皆さんと実り多い交流を重ねることができました。派遣人員も延べ80人にのぼり、これらの費用の多くは〈わ〉の会員や現役の皆さまから寄せられた「サポート募金」を活用させていただいたものです。メンバー派遣には昔遊び、マジック、銭太鼓など各サークルのお世話になりました。オールKSCで取り組んできた東北支援事業にご協力くださった皆さまに、篤く御礼申し上げます。

東北の皆さんと築いてきた絆は、何らかの形で継続したいと考えています。今後ともご支援をよろしくお願いします。 理事長 小畑浩昭

けることが出来ました。ご支援くださった方々に感謝申し上げます次第です。

支援活動も初期のころは意思の疎通も充分ではなく、戸惑いや苦労もありました。3年目位になると「神戸からよく来てくれた」と歓迎されるようになり、硬い表情の子どもたちにも笑顔が見られるようになりました。5次隊・6次隊になると、子供たちや被災者の皆さんにも余裕がでてきたのか、「心の交流や寄り添い」活動が出来るようになりました。復興はまだまだですが、復興住宅への入居も順次進み、新しい街づくりに取り組もうと努力されています。私たちオールKSCとしてはこれからも被災地のコミュニティづくり、ふるさとづくりを見守り、心の応援をしようではありませんか。

グループ〈わ〉の活動に対し、2014年3月には厚生労働大臣から、2015年3月には兵庫県知事から感謝状を頂きました。これも皆さまのご支援のお蔭だと感謝しております。

